

## 取り組みのデータベースの活用

- 事業の実施
- 事業の企画立案
- 事業の評価
- 事業の見直しと新しい展開
- 事業の終了と新事業の立案

### 3. 質疑応答

- ・ 管理栄養士の立場から 健やか親子は学校に対してまだ浸透が浅いので、これからどう皆に広めていくかが課題。
- ・ 情報の提供で留まっていて、まだ具体的な取り組みが紹介されていない。
- ・ 保健師より現状として一次世代計画についてようやく取り組めることになった。自分たちのしたいことがまとまり伝えられるようになってきた。今日の講義の内容は現状にあった。保健師の考えることを理解してくれる人に相談したいと思った。

→福岡では守山先生に相談されると良い。

→ML 交換もできます。

- ・ 次世代について何も手をつけてない状況にある。
- ・ 話合う機会があるといい。

### 4. 閉会の挨拶（松浦）

「健やか親子 21」取り組みの DB に是非情報のご提供をお願いいたします。

今日はお時間をとおとりいただきご参加いただきましてありがとうございます。今後とも何卒よろしくをお願いいたします。



#### ご参加いただいた皆様へ

福岡県立大学看護学部の松浦賢長でございます。今回は山縣班の研修会に参加していただきましてありがとうございます。保健師のかたのみならず、福祉部門の方々、そして栄養士、保育士の方々など、多方面からの参加をいただき、健やか親子 21 と次世代行動計画に対する皆様の関心の高さを伺いしることができました。このテーマに関しては、モデルとなる取り組みがすでにあるという状況ではなく、今後のみなさまの取り組みのひとつひとつが、次の世代へのモデルになっていくのだと思います。どうか、これからの取り組みのプロセスをまとめられて、またわれわれにそれをご指導いただければと思います。今回はありがとうございます。山縣班の分担研究者ということで福岡におりますので、どうかなんなりとお気軽にご連絡いただきますようお願いいたします。

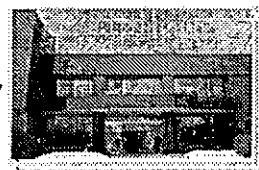
松浦賢長 [matsuura@fukuoka-pu.ac.jp](mailto:matsuura@fukuoka-pu.ac.jp) / 0947-42-1905

# 母子保健研修会 in 北海道

効果的な事業の企画：地域行動計画策定のポイント

— 良い事業・企画とは何か？ —

— 魅力的な企画書の作成方法 —



— 2004年2月21日(土) —

会場：とちちプラザ 9:30-16:30

厚生労働省科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業

「地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究」班

主任研究者：山縣然太郎

## プログラム

### 1. 趣旨・目的

市町村において母子保健計画を展開する中、効率的な事業の推進とその効果が期待されている。健やか親子21の理念に基づき、母子保健計画の目標達成に向け、地域住民のニーズに応じた事業を展開するためには、既存の母子保健事業をいかに評価し、事業の再構築をするための技術等が必要になる。この研修において、事業の評価方法・情報の収集分析・事業の再構築の手法等について、実際の事業実施につなぐ手法を学習することを目的とする。

### 2. 対象

保健師、助産師、栄養士、養護教諭、福祉担当者等

### 3. スケジュール

#### 第一部「母子保健事業における scrap and build の考え方」

(9:30~11:45 4F 401号室 → 13:00~14:30 4F コンピュータールーム)

#### 1. 開会の挨拶

- |         |       |                          |
|---------|-------|--------------------------|
| 2. 講師紹介 | 山縣然太郎 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座教授 |
|         | 近藤 尚己 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座助手 |
|         | 山田 七重 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座   |
|         | 中村 和美 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座   |

#### 3. グループワークと講義 「企画書を作ってみよう！」

#### 4. 感想用紙記入

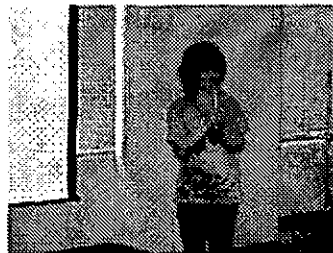
## 第二部「健やか親子 21 取り組みのデータベースの活用を考える」

(14:30～16:30 4F コンピュータールーム)

1. 講義とグループワーク 健やか親子 21 のホームページを紹介し、特に「取り組みのデータベース」を現場で役立てる際、どんな情報が必要なのか、事例を通して検討します。
2. ワークショップ 自身の地域のデータについて、必要な情報が掲載されているか、という視点でふりかえり、実際にデータの登録や修正を行います。
3. ディスカッション
4. 閉会のことば (山縣)
5. 感想用紙記入
6. 修了書授与

### 研修会の概要

1. あいさつ (河井) (9:30-9:35)
2. はじめに (山縣) (9:35-9:50)



カリキュラムをどのように作っていくかを学び、学習目標をしっかりと立てて、計画をどう評価するかをきちんと考えるために、GIO、SBOs を考える。

#### ・GIO (一般目標)

健やか親子 21 および次世代育成支援推進法を踏まえた効果的な事業を企画立案できる能力を身につける。

#### ・SBOs (行動目標)

- 1) よい事業、企画とは何かを知る。
- 2) プレシード・プロシードモデルを活用できる。
- \* 3) 事業の優先順位をつけることができる。
- \* 4) 企画書を書くことができる。



- 導入 (Ice breaking)
- 展開＝作業
- 評価
- 予定表



### 3. グループワーク1－Ice Breaking－ (9:50－9:55)

- ・ 氷を溶かす→また、固める (違った形)
- ・ 課題：1. これまでに保健師や助産師の仕事をしていて、感動したことは何ですか？
- ・ 自己紹介も兼ねて各班で発表し (5分)、全体で発表する (各班1分)。

#### 発表 (9:55-10:00)

##### グループ1 (編田)

- ・ 人との関わりの中にあり、家庭訪問を通して住民と関わり、相談時等に「これからもよろしくお願ひいたします」と言ってくれたこと。
- ・ 看護師としても地域の人と関わる中で感動したことがたくさんあった。
- ・ 同じ職場の中で同じような仕事をしている人同士で、仕事内容を通じて話げできたこと。

##### グループ2 (河合)

- ・ 新生児訪問で、家族の力によって家族やお母さんが育っていくということで感動が得られる。人と人とのつながりが見られること。
- ・ 高校生を対象に食べることを中心に介入していくこと。

##### グループ3 (高桑)

- ・ 保育園に行った時に2回目に行った時、幼児が「歯きれいになったよ」と言ってくれたり、関係者の人と関わっていて、どんどん変化が見られたことなど。
- ・ 痴呆のおばあちゃんが始めは受け入れてくれなかったが、徐々に受け入れてくれたことなど。

#### 解説 (山縣)

感動したことを聞かれてもなかなか難しいと思うが、色々な保健活動の中で、座って机の上だけでやっているとなかなか感動が得られないが、小さなことでも人とコミュニケーションをとっていると感動が生まれる。感動というのは色々なことをやっていく上でのモチベーションになる。

### 4. よい事業、企画とは－企画例A・Bの提示－ (10:00-10:10)

#### 企画A：事故防止対策

- ・ 目的：小児の事故を減らすことを目的とする。
- ・ 内容：事故防止啓発のリーフレットを用いた事故予防講習会を1歳未満の乳幼児を持つ親を対象に実施する。費用は講師謝金、資料代、通信費。
- ・ 期待される効果：事故の減少
- ・ 評価方法：1歳6ヶ月までの事故の件数。

#### 企画B：事故防止対策

- ・ 目的：乳幼児の誤飲防止。
- ・ ねらい：乳幼児の誤飲防止に必要な具体的な行動を身に付ける。
- ・ 内容：乳児健診時に誤飲チェッカーを用いた誤飲防止方法を学習する。費用は講師謝金、資料代、通信費、誤飲チェッカー購入費。



- ・ 優先順位の上位の事業
- ・ ターゲットの絞込みができています
- ・ 他の事業との関連がある
- ・ 適切な評価
- ・ その他

\* 1Gの発表にあったように、ねらいがあるか等の視点がポイントとなる。

### ☆プレシードプロシードモデル (PRECEDE-PROCEED モデル)

\* 段階を踏んで具体的な要因を考え、どこを目的として、健康教育や政策を進めるか、ということが大切である。

「QOL (社会診断)」・「健康 (疫学診断)」・「行動・環境診断」

「健康・組織診断」・「行政・政策診断」

\* 日常の活動の中で、住民との関わることで、声を把握できる。

### ☆前提・実現・強化要因からの「ねらい」の設定

#### ・ 前提要因

住民が健康行動の前提となる知識、技術を身につけ、動機を高める。

#### ・ 実現要因

住民が健康を実現するために行動できる機会や環境を提供する。

#### ・ 強化要因

住民が健康のために積極的な行動を強化・継続できるように支援する。

何を提供するか？

- ・ どんな事業が効果的か
- ・ 住民は何を欲しているか

\* 提供する側のねらいと、住民のニーズがあるかどうか等が大切

## ☆ソーシャルマーケティング（定義）

\* 例：公共交通機関のないところで、車を提供した。

でも3割しか使わなかった。なぜか？

→不便を感じなかった。ほしい車が違った。つまり住民の wants がなかったために、税金の無駄遣いだった、という例

一方で、住民の wants だけを聞いていればいいのか、というと住民が気づかない needs もあるかもしれないので、それに気がついてもらう事業を立てていくことも大切

## 5. グループワーク3ーブレインストーミングー（10:50-11:00）

古新聞の使い方を思いつくだけあげて下さい

### 発表

グループ3（林）15個

敷物、ラッピング、燃料、再生紙、保温、折り紙、おもちゃ、食品保存、油吸い取り、食器の汚れ取り、ガラス拭き、梱包、傘の代わり、着る、畳の下敷き

グループ1（今井）19個

窓拭き、庭掃除、残飯包み、防寒（服の下に）、畳の下敷き、焼き芋保温、野菜包む、かぶと、おもちゃ、長靴に入れ湿気を取る、紙粘土の材料、張子作り、再生紙、重し、習字、水分吸収、梱包、荷物の隙間埋め、敷物

グループ2（松中）23個

古い油、魚切、子どもの遊び、靴干し、ガラス磨き、猫のおしっことり、犬の寒さよけ、玄関掃除、牛乳パック、いす、割れ物包む、吸水シート、たたみの下、かぶと、梱包、型紙、工作、野菜包み、習字、ごみ処理、靴湿気、敷物、再生紙、

## 解説（山縣）（11:00-11:20）

たくさんのを考えると、良いものが出てくるので、たくさん出して行って、それを分類していくという方法で行う。

## ☆KJ法（川喜田二郎）の紹介

ひとつのテーマに対して、思いつくものを出して、グループ化する（島をつくる）。さらにそのグループに名前をつけて、その関係を上手に絵にしていくと、頭の整理ができて、その次に問題の解決を考えていくことができるようになる。島に入らないものも出てくるが、それが大切なものである可能性もあるので、それはそれとしてとっておく。

## 6. グループワーク4ー「子育て支援」として、どんなことがあげられるか？ー

発表（11:20ー11:25）

グループ1（大野）

- ・ ネットワーク（子育てネットワーク（コーディネート））
- ・ 託児（休日の託児、気軽に利用できる託児サービス、一時的に子どもを預ける所）
- ・ 医療（小児科医の確保）
- ・ 訪問（家庭訪問、小児の訪問看護、妊婦訪問、新生児訪問）
- ・ 学習（離乳食講習会、乳児食講習会、虫歯予防教室、支援のための法律学習会、遊びマップの作成、子育て講話、お母さん教室、子育て学習会（両親への）、子どもとは育児とはという講義を聞く講演会）
- ・ ふれあい体験（赤ちゃんふれあい体験、高齢者とのふれあいの場提供（大家族のような））
- ・ 相談（育児相談、健康相談）
- ・ 父親への支援（父親の育児休暇など、父親対象の育児演習、お父さんも含めた教室）
- ・ 経済支援・負担（子育てに関わる経済的支援）
- ・ 健診（乳児健診、1歳半・3歳児健診）
- ・ サークル（母親のリフレッシュサロン、子育て支援センター事業（サロン、クラブ）、子どもの集う場所の確保、親子で参加できるサークル、育児グループ・サークル支援、母親サークル、育児グループ設立体験を聞く講演会）



○グループの分け方は・・・言葉が共通しているものを集めてグループ化

グループ2（鎌田）

・ 経済

《妊娠前・中》

- ・ 妊娠中の教育、不妊相談、プレネイタルビジット
- ・ 食事全般の教室

《乳幼児期》

子どもの健康教育、歯科

・ 訪問、相談、健診

《母親》母親交流の場、一時預かり、買い物支援

《乳幼児期》遊び支援（乳幼児遊び教室、保育所朝の自由遊びへの参加、遊びの広場）、絵本読み聞かせ



○グループの分け方は・・・ライフサイクル（時期）に合わせて



### グループ3 (政木)

- ・ 子育ての仲間づくり (絵本の読みかけ)
- ・ 健診・相談 (乳幼児健診、育児相談、健診相談)
- ・ 健康教育 (お母さん教室、離乳食の教室、  
祖父母への教育 (母乳育児を阻害しない、支援できる)、性教育)
- ・ 保育 (1 時保育 (親子フレッシュ)、夜間保育、病児保育、  
24 時間保育、子育てを預けるネットワーク)
- ・ 制度 (育児休業、虐待予防ネットワーク)
- ・ その他 (産前・産後家庭訪問、母子同室など)

○グループの分け方は・・・事業別

## 7. グループワーク5 - 課題別にグループを分ける -

子育て支援の事業はどのような課題に対して行われている事業なのか。

### 発表 (11:35-11:45)

#### グループ2 (鑑)

なぜ子育て支援が必要になったのか？

- ・ 子どもの発達健康面
- ・ 妊娠中の健康教育
- ・ 母親への支援
- ・ 母子関係
- ・ 経済的な問題

#### グループ3 (柳平)

子育てに関する仲間づくり

- ・ 近所に同じように子育てをする仲間がない → 育児サークルなどが必要
- ・ 子どもの健やかな発達を支援する → 健診、育児相談事業
- ・ 働く親の増加、子育てを助ける祖父母・同居者の減少 → 一時保育、夜間保育支援

#### グループ1 (編田)

- ・ 経済負担を軽減する
- ・ 父親への支援 (父性啓発)
- ・ 連携、ネットワークづくり
- ・ 母親育児不安 → サークル、相談、託児

- ・ ハイリスクの発見、不安 →訪問、健診
- ・ 育児体験が少ないのでは→支援必要 →ふれあい体験

質問（山縣） 赤ちゃんふれあい体験はどのような健康課題に対して行っているのか？

父親への支援はどのような理由で行っているのか？

答え（編田） 事故が多いので・・・事故に対する支援

子どもの健やかな発達のために・・・健診事業

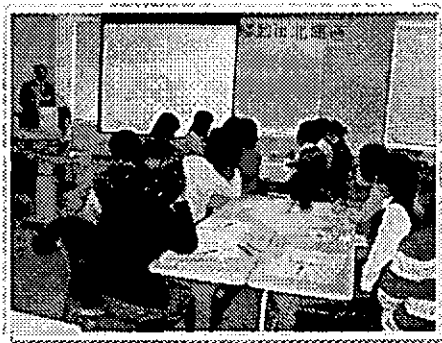
母親の子育てが大変なので・・・母親の育児支援事業

解説（山縣）

課題別にグループ分けをするというのは、どんな課題を解決するためにしているのか？今行っている事業は、課題がしっかりできているのか？という振り返りが必要である。

☆ねらい別に分類するという視点（11:45-11:55）

- ・ 前提要因
- ・ 実現要因
- ・ 強化要因



☆優先順位を決める二次元展開法

- ・ 根拠はなにか（法律 住民のニーズ）
- ・ グループに分けられるか（まとめられるか）
- ・ 優先順位は（重要度、緊急度、解決可能性）
- ・ 企画立案する課題を決める

相対危険度(関連性の強さ)と  
寄与危険度(影響の大きさ)

	肺がん (+)	肺がん (-)	合計	心筋 梗塞 (+)	心筋 梗塞 (-)	合計
喫煙	100	9900	10000	1000	9000	10000
非喫煙	20	9980	10000	500	9500	10000

相対危険度  
 $= (100/10000) / (20/10000) = 5$   
 寄与危険度  
 $= 100/10000 - 20/10000$   
 $= 80/10000$

相対危険度  
 $= (1000/10000) / (500/10000) = 2$   
 寄与危険度  
 $= 1000/10000 - 500/10000$   
 $= 500/10000$

● 寄与危険度が高いと多くの人に関連があり、影響を与える。  
 ● 寄与危険度は罹患率に影響される。

☆緊急度とは？重要度とは？

- ・ 緊急度
  - 命にかかわること。
  - 急激な変化が予想されること。
- ・ 重要度
  - 法律に基づくこと。
  - 住民のニーズが高いこと。
  - 町（首長）の方針。
  - 多くの人が関わること。
  - その他？

☆相対危険度（関連性の強さ）と寄与危険度（影響の大きさ）（13:05-13:15）

Q. タバコをやめることによって肺がんと心筋梗塞どちらの病気を減らすことができますか？

A. 心筋梗塞

関連性は肺がんの方が多いが、救える人は関連性の少ない心筋梗塞の方が多い。

\* 相対危険度が高いほうが疾患になりやすい→喫煙者は肺がんの方がなりやすい。

\* 寄与危険度が高いと多くの人に関連があることになり、多くの人に影響を与える。

\* 寄与危険度は罹患率に関係する。

→相対危険度が少なくても多くの人を救えることができる。

→危険度、重要度を考えてバランスの取れたことを行うと良い。

育児をどうしようかと不安を抱えている母親がたくさんいるが、少しでも変化することを多くの人に  
対して行うと解決につながる→疫学が必要となる。

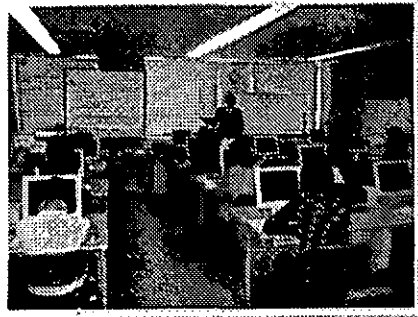
8. まとめ（13：15-13：20）

企画案の作成（1）

- ・問題点の分析

企画案の作成（2）

- ・キャッチフレーズ
- ・目的、ねらい
- ・期待される効果
- ・具体的な内容
- ・評価方法

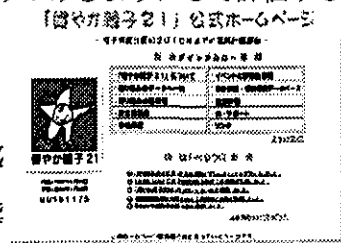


解説（山縣）

評価をしていく上で一番大切なことは、目的を大切にすること。

目的を前提要因、実現要因、強化要因というように目的をはっきりつけるようにして評価すると良い。

これが、きちんとできていると、企画として良いものと判断できる。



9. レクチャー「健やか親子21」と「次世代育成支援法」（13:20-14:7）

1) 「地域における新しいヘルスケアコンサルティングシステムに関する

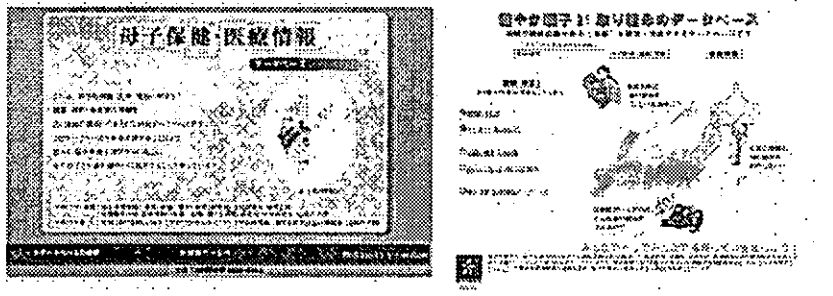
2) 「健やか親子21」公式ホームページの構築・運営

母子保健サービス実施の情報収集と供給体制の整備のため

にホームページ作成を提案し、「健やか親子21公式ホームページ」を作成、運営している。

### 3) 情報提供データベースの構築

- ・ 母子保健医療情報データベース
- ・ 取り組みのデータベース



### 4) 健やか親子 21 について

☆健やか親子 21 の性格

☆基本視点

- ① 20 世紀中に達成した母子保健水準を低下させない努力
- ② 21 世紀中に達成し切れなかった課題を早期に克服
- ③ 20 世紀終盤に顕著化し、21 世紀にさらに深刻化することが予想される新たな課題に対応
- ④ 新たな価値尺度や国際的な動向を踏まえた斬新な発想や手法により取り組むべき課題を探求

☆「健やか親子 21」の課題設定

1. 思春期の保健対策の強化と健康教育の推進
2. 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援
3. 小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備
4. 子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減

☆「健やか親子 21」の推進方策

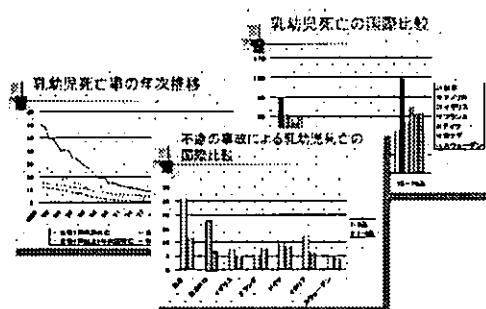
#### 1. 基本理念

1986 年の WHO 国際会議で提唱された公衆衛生戦略であるヘルスプロモーションにおく

#### 2. 推進方策

- ① 各団体の取り組み内容の明確化と自主的活動の推進
- ② 「健やか親子 21 推進協議会」の設置
- ③ 具体的課題を明確にした目標の設定

乳幼児死亡率は低下しているが、不慮の事故による乳幼児死亡には課題が残っている

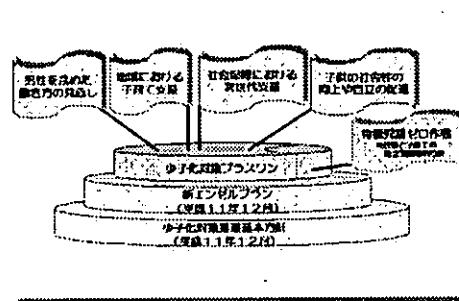


☆取り組みの目標（例示）

- ・ 保健水準の指標
- ・ 住民の行動の指標
- ・ 行政・関係機関等の取り組み

6) もう一段の少子化対策「次世代育成支援対策推進法」

- 少子化対策推進基本方針（平成 11 年 12 月）
- 新エンゼルプラン
- 仕事と子育て両立支援対策方針
- 待機児童ゼロ作戦
- 少子化対策プラスワン（平成 14 年 9 月）
- 次世代育成支援対策推進法
  - ・ 男性を含めた働き方の見直し
  - ・ 地域における子育て支援
  - ・ 社会保障における次世代支援
  - ・ 子どもの社会性の向上や自立の促進



☆基本的な事項

- 基本理念
- 策定の目的
- 関係者の連携
- 次世代育成協議会の活用

☆基本的な視点（市町村行動計画）

- (1) 子どもの視点
- (2) 次代の親づくりという視点
- (3) サービス利用者の視点
- (4) 社会全体による支援の視点
- (5) 全ての子どもと家庭への支援の視点
- (6) 地域における社会資源の効果的な活用の視点
- (7) サービスの質の視点
- (8) 地域特性の視点

☆必要な手続き（市町村行動計画）

- (1) 現状の分析
- (2) ニーズ調査の実施
- (3) 住民参加と情報公開

☆策定の時期（市町村行動計画）

- (1) 平成 17 年 3 月までに策定
- (2) 5 年を 1 期
- (3) 21 年に見直しをし、22 年から 26 年の計画を策定

☆点検と推進体制（市町村行動計画）

- (1) 全庁的な体制の下に、各年度においてその実施状況を一括して把握・点検する
- (2) 毎年少なくとも 1 回は、実施状況を公表する：広報誌、ホームページなど（第 8 条第 5 項）
- (3) 住民の意見を聞き、見直しに反映させる

☆内容に関する事項（市町村行動計画）

- (1) 地域における子育て支援
- (2) 母性ならびに乳児および幼児の健康の確保及び推進  
「健やか親子 21」の趣旨を十分踏まえたものとする
- (3) 子どもの心身の健やかな成長に資する教育環境の確保
- (4) 子どもを育成する家庭に適した良質な住宅及び良好な居住環境の確保
- (5) 職業生活と家庭生活との両立の推進
- (6) 子どもの安全の確保
- (7) 要保護児童への対応などきめ細かな取り組みの推進

☆今、何をすべきか？

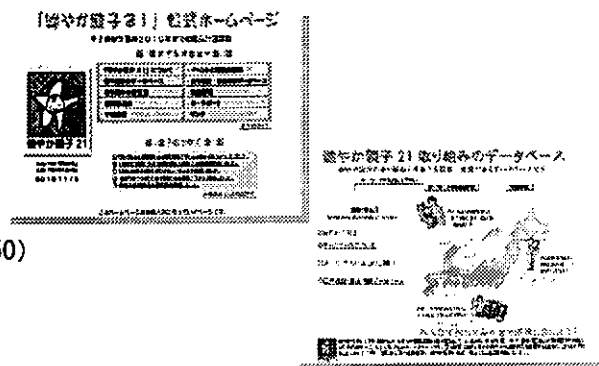
○次世代育成支援対策地域協議会（地域協議会）への参加

○福祉担当者との連携

- ・ニーズ調査結果の検討
- ・地域住民のニーズ
- ・母子保健計画、児童育成計画、保育計画、地域福祉計画などとの整合性
- ・子育て支援 NPO との連携

☆地域での取り組みの紹介（山梨県塩山市）

塩山市事故予防プログラム・・・誤飲チェッカー



10. 取り組みのデータベースの活用（14：20-14：50）

☆ホームページの紹介

取り組みのデータベースの活用

☆取り組みの書き方についての検討（14：50-15：00）

データベースに登録されている3つの「赤ちゃんふれあい体験事業」の事例について、どの書き方が良いかを検討した。

事例1：事前学習・当日・事後学習に分け、誰が行った、ということを列挙したもの

事例2：誰を対象に、何を（講演の題名等）、誰が、どこで、行ったということを文章で記述しているもの

事例3：何を（題名、内容等）、どのように行ったということを文章で記述しているもの

## 発表

(松中) 事例2が良かった

- ・ 事業1は、内容がわかりにくく、イメージが付けにくい。
- ・ 事業2は、中学校では事前学習は誰がやったのか出ていず、高校では助産師と出ているので、誰が行ったかがわかるとありがたいと思った。
- ・ 事業3は、イメージが付けにくい。妊娠中のどういう状況の母親なのかがわかりづらかった。
- ・ 全体的には、対象が思春期と出ているが、もう少し細かい対象が出ていても良いかと思う。

(編田) それぞれに良いところがあるので、どれとは付けにくい

- ・ 事例1は内容が具体的に入っていない、イメージが付けにくい、何回目になんかということをするということが記載されているのでわかりやすい。
- ・ 事例2は、誰が何をすることがわかりやすいと思った。
- ・ 事例3は何を使ってどういうことをしているのかが具体的に書かれている点は、良いと思った。

(林) 内容では事例3

- ・ 実際に自分が参加するとした場合、事例3は動きがあるので、参加したくなる。

## コメント (近藤)

情報は、地域保健の担当者だけではなく、住民にも公開されるものなので、参加される方の視点という意見は、非常に重要だと思う。また基本的な情報として、5W1Hが含まれていることが最低限必要である。

When : いつ

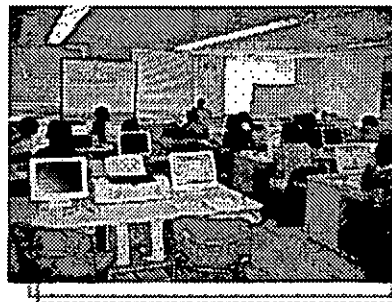
Where : どこで

Who : だれが

What : 何を

Why : なぜ

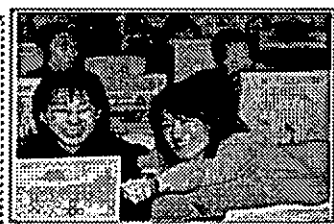
How : どうやって



## ☆重要な項目

事業名に単に「思春期赤ちゃんふれあい事業」と入れるだけではなく、「赤ちゃんモデルを使用した思春期赤ちゃんふれあい事業」と入れると良い。ねらい、目的、実施内容に、各事業の売りの項目を載せると良い。下記項目が。取り組みについて検索・登録する時に、重要な項目であるといえる。

- ・ タイトル・キーワード
- ・ 目的
- ・ 目標(値) → 評価
- ・ 内容がわかりやすい





- ・ 住民参加の有無 ・ 他機関との連携 ・ トレンド

**☆ワークショップデータベースへの入カ（15:00-16:00）**

**11.まとめ（山縣）（16:00-16:30）**

母子保健事業について「健やか親子 21」「次世代育成」を含め、これからどのように取り組んで行けば良いのか、不安がでてくるかもしれない。計画を立て、評価をしなくてはならなくなり、住民とどのように対応して進めていけば良いのか悩むところだが、そういう時に、この研修会の最初に挙げてもらったように、「これまでに感動したこと」がとても大切になる。

皆さんが元気だと、住民も元気になると思うので、自分達も常に「がんばろう」と思っていることが大切である。一人ではできなくても、今回紹介したような全国の市町村が登録している「取り組みのデータベース」を活用することが、明日からの糧になればと願っている。この情報を使って、住民のみんなのためにどんなことができるのかを考え、がんばっていただきたいと思う。

**☆参加者からの感想**

小宮山 いい機会だったのに、人数少なくてもったいないと思った。今度 DB を使って、他市町村の情報を活用していきたい。

松中 テーマは自分個人では何ができて、どういうことができたらいいな、見えたらいいなと思ひ参加した。今日参加してこれからのことが見えてきそう。元気が出てよかった。

政木 普段は病院の中にいるので、日々の仕事に追われているだけではだめだと勉強になった。

大野 今日は混乱していたことがすっきりした。今行動計画を立てている最中で、帰ってから担当者に教えたいと思う。

編田 学校で習っていたことがなかなか実践にできなかったが、今回の研修で実践に結びつけることができる気がした。DB は中々開く機会はないが、これから活用していきたい。

新沼 村の保健福祉課には HP を見る場所がなかったが、これからこのような情報をたくさん使って、活用していきたい。

林 健やか親子 21 という名前しか知らなかった。パソコンも苦手で困っていたが、先生の話や HP を見てすごく興味が出てきた。

今井 釧路から来たが、他の人が来なくてもったいないと思った。色々な計画があつて、これから疑問ができてきたらまた先生にお聞きしたいと思った。

大口 健やか親子 21 の HP をよく見ている。今まで使えなかったページも見ることができ解決してよかった。年度末で事業評価の時期なので、今日の話聞いて、とてもすっきりした。

河合 今回難しそうだと思ったが、わかりやすかった。こういう DB を利用して自分の活動をアピールしていきたい。

河井 大勢の皆さんに出席していただけてうれしかった。一人で頑張っている助産師さんたちもこのような HP などを参考に、地域と融合して行ける場の企画となればと思った。

澤田 自分の地域の事業をまじめに書いておいて良かった。普段は成人の担当をしている。あまり健やか親子 21 を真剣に考えたことはなかったが、今日を機会に色々なところを開いて確認していきたいと思う。

田中 次世代を担当しているので今日の講義を参考にさせていただきたいと思う。

鎌田 精神保健、老人を担当している。ホームページに自分も参加できるのだとわかりよかった。

長井 情報をどのようにして活用していけば良いのかがわかってよかった。活用していきたいと思った。

**（修了証授与）（16:30 終了）**

**☆最後に（山縣）**

土曜日に関わらず大勢の方に参加していただきありがとうございました。

ホームページへのアクセス数 20 万件を目指していきたいと思う。

母子保健関係者同士のメーリングリストがあるので、そこでどんどん質問等を出して、

これからも皆様とのつながりを続けていけたらと思っている。



第6回「母子保健福祉研修会」  
— 2004年2月22日(日) —



会場：(社) 日本理学療法士協会会館 10:00-15:40

主催 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業

「地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究」班

主任研究者 山縣然太郎 (山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座)

社団法人 日本理学療法士協会社会局公益事業推進部

**プログラム**

1. 趣旨・目的

健やか親子21と理学療法士の関わりについて、健やか親子21公式ホームページを通じて、具体的に提示・検討していくことにより、健やか親子21推進の重要な一端を担う専門職としての認識を高め、健やか親子21の取り組みに、効果的な関わり方ができるように、1人1人が考える場とすることを目的とする。

2. スケジュール

**午前の部「健やか親子21公式ホームページの紹介」 (10:00~12:10)**

1. 開会の挨拶

2. 講師紹介
- |       |                          |
|-------|--------------------------|
| 山縣然太郎 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座教授 |
| 近藤 尚己 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座助手 |
| 山田 七重 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座   |
| 中村 和美 | 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座   |

3. 講義 「健やか親子21と理学療法士との関わり」

4. 感想用紙記入

**午後の部「健やか親子21取り組みのデータベースについて」 (13:30~15:40)**

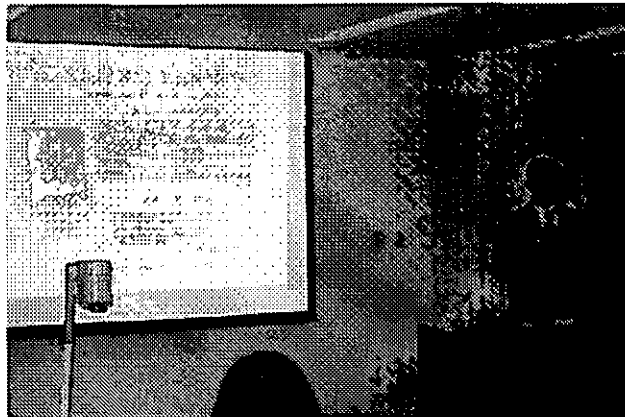
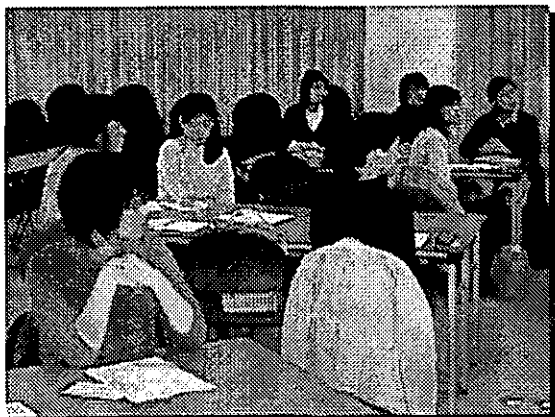
1. 講義とグループワーク 健やか親子21のホームページの中で、特に「取り組みのデータベース」の情報検索について紹介します。また、実際に理学療法士が関わっているデータの紹介等を通して、具体的な理学療法士の健やか親子21への関わり方について検討します。

2. ディスカッション

3. 閉会のことば (山縣)

4. 感想用紙記入

## 5. 修了書授与



### 研修会の概要

#### 1. あいさつ (久宮)

平成 12 年度から「健やか親子 21 推進協議会」に参加しており、これからも積極的に参加していきたいということで、本日、この研修会をお願いした。母子保健の中で、理学療法士がどのように関わっていけば良いのかという課題がある。理学療法士として、乳幼児との関わり以外にも、子育て支援や妊婦への支援に参加して行きたい。本日の研修会を、話を聞くだけのものではなく、情報交換の場としていただければ幸いである。



#### 2. 講師紹介 (縄井)

山縣然太朗 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座教授  
近藤 尚己 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座助手  
山田 七重 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座  
中村 和美 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座



#### 3. はじめに (山縣)

理学療法士という職については、現在は、3次予防への関わりが主となっていると思うが、今後は、国の基本的方針が治療から予防へと変わったことを受けて、機能を失った障害者の社会復帰への支援に加えて、機能を落とさないように訓練する1次予防への関与も大切になってくるだろう。一方で、国の母子保健・少子化対策の流れは大きく変わろうとしており、健やか親子 21 もその流れの中にある。今日は皆さんが、今後、具体的に母子保健にどのように関わっていくか、ということについて、一緒に考えて行きたい。



#### 4. レクチャー「「健やか親子21」における理学療法士の役割」(山縣 10:15-11:15)

##### 1) 「地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究」の紹介

(PPT—別添したパワーポイントの資料— p2-9)

- ・研究の一環として、母子保健サービス実施の情報収集と供給体制の整備のために「健やか親子21 公式ホームページ」を作成、運営している。
- ・またこの中で、2つの情報提供データベースを構築している
- ・他に小児の事故予防や母子心理に関する介入研究を行っている

##### 2) 健やか親子21について (PPT p10-32)

- ・国民運動計画、少子化対策、健康日本21の一翼、2001-2010年、ヘルスプロモーション
- ・乳幼児死亡率は下がったが、不慮の事故による乳幼児死亡等に課題が残っている
- ・課題1：思春期の保健対策の強化と健康教育の推進
- ・課題2：妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援
- ・課題3：小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備
- ・課題4：子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減
- ・理学療法士の関わり：課題4に包含。「臨床における子どもの心の問題に対応するために、小児科医のみならず、小児科医以外の医師や看護婦・士、理学療法士、言語療法士などの小児医療に関連する職種についても、子どもの心の問題に関する研修システムの確立を図る。」
- ・目標値の設定：例えば10代の性感染症を減らす、という目標を達成することを考えた時に、具体的に性感染症の知識を持った子どもの割合を増やす、等の具体的な目標値を出して、達成しようとするものである。
- ・こういった活動を通してみんなで実現して行こう、とする運動が健やか親子21である。

##### 3) もう一段の少子化対策「次世代育成支援対策推進法」(PPT33-43)

- ・健やか親子21は法ではないので、次世代育成支援対策推進法が制定された。
- ・具体的な行動計画を地域で立てることによって、実際に少子化対策を実践することを目指すものである。市町村、都道府県、300人以上の事業所の事業主、特定事業主に対して、行動計画を立てなさい、というものである。
- ・この法は、生みたくない人に生め、という法ではない。これまでの研修会の中で、少子化対策は、子どもの数を0から1にする対策なのか、1から2にする対策なのかという議論があった。これは、1から2に対する対策で、もう一人生みたいが、経済的・職場環境的に難しい、といった事情があるお母さんをサポートしていくものであり、働いているお母さんがターゲットとなる。